本県3事業が継続了承

下館バイパスや桜川筑西IC関連など

事業評価監視委

国土交通省関東地方整備局は15日、2021年度第2回事業評価監視委員会（委員長＝朝倉康夫東京工業大学環境・社会理工学院教授）をWeb会議で実施した。国道50号下館バイパスなど15件について、継続とする対応方針が原案通り了承された。

このうち、本県関係の事業は国道50号下館バイパス、結城バイパス、桜川筑西IC関連（延伸）。

下館バイパスは1983年度に都市計画決定され、2014年度にはバイパス区間（L7・6㎞）が2／4車線で暫定開通。事業期間は電線共同溝などの追加により26年度から30年度に延伸する。

全体事業費は、電線共同溝や軟弱地盤対策の追加、用水や排水の計画変更などにより、前回評価時から約78億円増の約465億円。

委員会では中心市街地の混雑緩和、通過交通の排除に伴う中心市街地へのアクセシビリティ向上、安全性向上の観点から、事業の必要性・重要性は高く、早期の効果発現を図るとする対応方針が承認された。

結城バイパスは、1978年度に都市計画決定。2002年度に全線が2／4車線暫定開通し、04年度には一部区間が4車線で開通した。事業期間は、新川島橋の護床工事の関係機関協議に時間を要しており23年度から26年度に延伸。

全体事業費は、調整池の追加や軟弱地盤対策の変更などにより、前回評価時から約45億円増の約334億円。

交通混雑の緩和、交通事故の減少、救急医療施設へのアクセス性向上、地域振興の支援のために事業の必要性・重要性は高く、早期の効果発現を図ることが委員会から了承された。

桜川筑西IC関連(延伸)については、05年度に都市計画決定され、21年3月現在の用地取得率は約81%となっている。用地取得が難航し、工事着手が遅延したことから、事業期間を21年度から24年度に3年延伸。

全体事業費は、軟弱地盤対策の追加に伴い前回評価時から約2億円増の約22億円。

国道50号の混雑緩和、北関東道と連携したネットワークの形成の観点から、事業の必要性・重要性は高く、早期の効果発現を図ることが適切であるとの対応方針が認められた。

また、委員からは「連続する区間なので、同じ考えで軟弱地盤対策を進めてほしい」「電線共同溝整備のコストが高いので、効率的な執行を工夫してほしい」などの意見が出された。

変更4件、とりやめ6件

行方市　発注見通しを更新

行方市が公共工事発注見通し（10月）を公表した。総数は11件で、内訳は変更が4件、とりやめが6件、変更なしが1件。変更となったのは市道（麻）1－13号線道路舗装修繕工事、玉造浄化センター長寿命化改修工事、市道（玉）3号線改良舗装工事、市道（麻）2379号線改良舗装工事で、いずれも発注時期を当初の予定から後ろ倒しとした。

市道（麻）1－13号線道路舗装修繕工事は工事場所が蔵川地内。工事概要は延長200m（土工、路盤工、舗装工一式）。予定工期は4カ月間。発注時期を第2四半期から第3四半期に変更した。入札方法は指名競争。

玉造浄化センター長寿命化改修工事の工事概要は砂ろ過器エアリフトポンプ1基、消抱水ポンプ2基。こちらも発注時期を第2四半期から第3四半期に変更した。予定工期は4カ月間。入札方法は指名競争としている。

市道（玉）3号線改良舗装工事は工事場所が手賀地内。工事概要は延長100m、土工、地盤改良工、路盤工、舗装工、排水構造物工一式。予定工期は2カ月間。発注時期は第2四半期から第4四半期へ変更となった。入札方法は一般競争。

市道（麻）2379号線は工事場所が新宮地内。工事概要は延長100m、土工、路盤工、舗装工、排水構造物工一式。予定工期は2カ月間。発注時期を当初の第3四半期から第4四半期へ変更した。入札方法は一般競争。

なお、とりやめとなったのは戸別浄化槽設置工事5件と麻生体育館アリーナ床全面改修だった。変更なしは市道（玉）54号線の道路舗装修繕工事。

防草シートを設置

工業団地調整池の周辺

坂東市補正

坂東市の補正予算第5号が、9月定例会議で承認された。主なものでは、地域公民館等整備費補助金については、小山上公民館で実施予定の屋根の葺き替え工事に充てられる。

防草シートの設置は、坂東インターエ業団地内に2箇所ある調整池の周辺などで行う。設置する面積は3200㎡ほどを見込む。発注に向け、すぐにも動いていく予定だ。

このほか、岩井保健センターの修繕料として85万円を計上している。

一般会計から3211万円を減額し、総額は210億3568万9000円となった。減額については、新型コロナウイルス感染症対策のため中止したイベント等の事業費の減額によるもの。

積水が1.4億で落札

戸建8戸分譲

茨城県 島名 福田坪

県宅地整備販売課は17日、島名・福田坪一体型特定土地区画整理事業施行地区の住宅事業者向け用地分譲に係る一般競争入札を執行。その結果、積水ハウス㈱（大阪府大阪市）が1億4975万4000円で落札した。同社は戸建住宅8戸の分譲を計画している。

土地の所在は、つくば市内のA41街区⑳画地外2画地。面積は1596・94㎡。つくばエクスプレス万博記念公園駅の北西に位置し、同駅までは徒歩約11分～18分。用途地域は第一種低層住居専用地域（建ぺい率40%／容積率80%）および第一種住居地域（建ぺい率60%／容積率200%）。

土地利用の主な条件として、土地の引渡しの日から5年以内に住宅の建設および分譲事業を行うことなどを設定している。

入札には9者が参加。予定価格（最低売却価格）は1億179万9000円だった。

空調改修に公募型指名

管理センター　余裕期間制度を試行

常陸海浜公園

国土交通省国営常陸海浜公園事務所は、「R3国営ひたち海浜公園総合管理センター空調設備改修その他工事」に公募型指名競争入札方式（総合評価落札方式・実績評価型）および余裕期間制度を試行する（公告は16日付掲載）。工事発注規模は5000万円から8000万円未満。技術資料等の提出期限は10月4日。11月4日開札する。

工事場所はひたちなか市馬渡字大沼605－4。工事種別は暖冷房衛生設備工事で、対象業者は暖冷房衛生設備B等級またはC等級。

総合管理センターはRC造2階建て、延べ面積214㎡。工事概要は既存空調設備の改設、これに伴う受変電設備・動力設備の改設、電灯設備（LED）の改設など。

工期は工事の始期から124日間（工事着手期限は11月22日）。

公募型指名競争入札方式（総合評価落札方式・実績評価型）は、競争参加時に配置予定技術者の申請は不要で、公共工事の実績のない企業でも参加しやすい方式。総合評価の加算点の評価対象は、企業の同種工事の施工実績（民間工事を含む）と災害活動実績のみとし、過去の工事成績や表彰実績、配置予定技術者の技術力は評価対象としない。

問い合わせは、同事務所工務課（電話029－265－9411、内線411）。

栄誉ある受賞たたえる

県大子工務所／技術者表彰

102件から優秀な成績

県大子工務所（山田道雄所長＝写真前列左から2人目）は16日、大子合同庁舎1階大会議室にて本年度の優良主任（監理）技術者表彰式を開催した。来賓として県建設業協会大子支部の大藤博文支部長（写真前列右から2人目）が出席。2020年度に完成した建設工事102件（発注額500万円以上）の中から、特に優れた成績をおさめた5人に表彰状、道路の良好な維持管理に尽力した2人に感謝状を贈呈し、その栄誉をたたえた。

山田所長は「受賞者の皆さまの卓越した技術力や創意工夫は、他の模範となるものである。地域住民の安全・安心を守るためにも、さらなる技術の研さんに励んでいただきたい」とコメント。

大藤支部長は「地域に必要な存在であることを念頭に置いて、引き続き安全第一で現場を進めていただきたい。また、今後はICT施工など新しい技術の習得にも取り組んでいただければ」などと述べた。

なお国の緊急事態宣言の期限延長などにより、研修会は中止とし、表彰式のみを短時間で実施した。

受賞者は次のとおり（敬称略）。

【主任（監理）技術者表彰】

［■主任（監理）技術者＝①会社名②工事名（工事番号）、路線（河川）名等］

■鈴木政貴(主任技術者)＝①吉原建設工業㈱②31国補河改・第31－05－211－0－003号・河川護岸整備工事（その5）、一級河川久慈川・大子町矢田地先

■齋藤嘉直(監理技術者)＝①㈲益子工務店②31国補地道・第31－03－794－0－006号・橋梁下部工事（南田気跨線橋）（A1橋台）、一般国道118号・大子町南田気地内

■佐手信義(監理技術者)＝①㈱藤田工務店②30国補地道・第30－03－794－0－006号・橋梁下部工事（北田気大橋）（P1橋脚）、一般国道118号・大子町北田気地内

■圓谷祐輝(主任技術者)＝①㈱大藤組②02県単道修・第02－54－301－0－002号外3本合併・道路維持修繕工事、一般国道118号外・大子町池田地内外

■小松栄（主任技術者）＝①大森建設㈱②02県単道修・第02－54－302－0－002号外3本合併・道路維持修繕工事、一般国道461号外・大子町下金沢地内外

【現場代理人表彰】［■現場代理人＝①会社名②工事名（工事番号）、路線（河川）名等］

■柳瀬泰志＝①海老根建設㈱②02県単道修・第02－54－301－0－001号外3本合併・道路維持修繕工事、国道118号外・大子町池田地内外

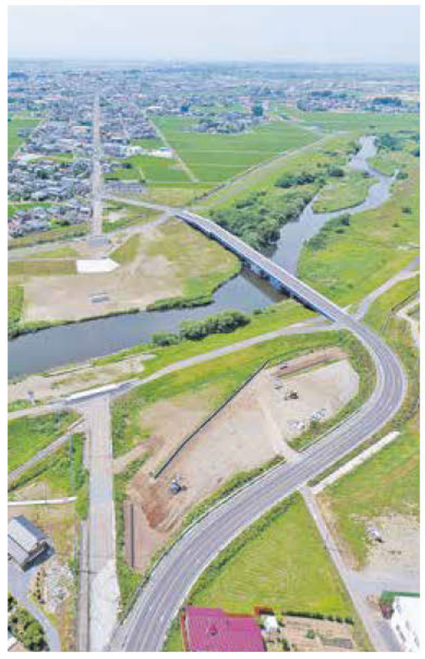
■飯岡修一＝①吉原建設工業㈱②02県単道修・第02－54－302－0－001号外3本合併・道路維持修繕工事、国道461号外・大子町下金沢地内外

筑西つくば線　約3㎞を用地取得

桜川は築堤など推進

事業概要　県筑西土木

県筑西土木事務所は、主要事業の概要を公表した。筑西幹線道路筑西三和線バイパスについては、約400m区間の整備を進めている。筑西つくば線は、約3・1㎞区間で用地取得を進めている。筑西つくば線の養蚕橋は、昨年度より橋梁下部工事に着手しており、本年度も引き続き下部工事を進める。桜川河川改修事業では、河道掘削、築堤および橋梁・堰の改築等を進めている。



一般県道岩瀬二宮線は、筑西市小栗地区から下高田地区の区間は幅員が狭あいで歩道がなく、車両の相互通行に支障があるため、バイパス整備に着手した。約1・8㎞が筑西市小栗の供用済みで、用地取得および工事を進めている。

（仮称）上曽トンネル整備事業は、地元産業や物流・観光を支える路線として期待される。桜川市からの受託事業として18年度に事業に着手し、19年度よりトンネル本体工事を進めている。

一般県道桜川土浦潮来自転車道線は約81㎞の自転車道。管内区間は約18㎞。桜川市真壁町酒寄地内の区間1・3㎞は、今年3月に供用を開始。現在は、舗装修繕工事、矢羽根設置工事を進めている。

一級河川桜川は、全体延長64㎞、流域面積約350㎢。真壁工区の山口川合流点までの8・2㎞を緊急改修区間に指定し、現在河道掘削、築堤および橋梁・堰の改築を進める。大和工区は、流下能力を高めるため、羽田橋付近で樹木伐採等の工事を進めている。

一級河川田川での河川改修事業は、鬼怒川合流点からJR水戸線上流までの区間は河道内貯留堤防を整備し、JR水戸線上流から県道福良橋までの区間は自己流に対応した堤防整備をする。現在は、樋管の設計や用地測量、用地取得を進めている。

砂防指定地男女の川は、豪雨時には河岸の浸食や転石が発生する状況だった。これを解消するため、流下能力を向上させるとともに、土石流対策として流路工の整備を進めている。

県西総合公園は、施設の劣化や損傷が発生してきていることから、予防保全型の管理を目的とした公園施設の長寿命化計画を基に施設の改修工事を進めている。今年度は、テニスコート更新工事を進める。

今年度の主要事業概要

（■事業名＝①全体計画②事業年度③進捗率（2020年度末）④本年度事業概要）

■筑西幹線道路（筑西三和線バイパス整備事業（結城市山王～粕礼）＝①L3089m、W23・5m（4車線）、総事業費53億円②2012年度～③96%④用地取得、道路改良舗装工事

■筑西つくば線バイパス整備事業（筑西市村田～中根）＝①L6960m、W27m（4車線）、総事業費89億円②1997年度～③46%④用地取得

■筑西つくば線（養蚕橋）「橋梁架換」整備工事（筑西市蕨～徳持）＝①L540m、W14m（2車線）、総事業費31億円②2013年度～③48%④橋梁下部工事、排水路工事、擁壁工事、函渠工事

■東山田岩瀬線バイパス整備事業（筑西市宮後～桜川市大国玉）＝①L8280m、W12m（2車線）、総事業費55億円②1995年度～③66%④用地取得、道路改良舗装工事

■岩瀬二宮線バイパス整備事業（筑西市下高田～小栗）＝①L3000m、W14m（2車線）、総事業費52億円②2018年度～③43%④トンネル本体工事、道路改良工事、調査・設計

■桜川土浦潮来自転車道整備事業（桜川市犬田～真壁町酒寄）＝①自転車通行空間の整備、案内標識と注意喚起標識の整備②2020年度～④舗装修繕工事、標識設置工事、矢羽根設置工事

■桜川河川改修事業（筑西市東石田～桜川市高森）＝①L1万6500m、総事業費200億円②1975年度～③53%④河川改修工事

■田川河川改修事業（結城市久保田～大谷瀬）＝①L4490m②2017年度～③17%④調査・設計、用地取得

■砂防指定地男女の川流路工整備事業（桜川市真壁町羽鳥）＝①L210m、総事業費1・4億円②2014年度～③59%④流路工整備

■県西総合公園＝①公園施設の長寿命化計画②2019年度～③10%④テニスコート更新工事

筑西幹線道路は、桜川筑西ICから古河市に至る、計画延長約44㎞の広域的な幹線道路。国、県、関係する市町が分担しながら、暫定2車線として整備を進めている。昨年度は約3㎞区間で供用を開始。現在、結城坂東線から八千代側（約400m）の区間で整備を進めている。

主要地方道筑西つくば線は、交通量が多く、幅員が狭あいで歩道もないことから、渋滞の緩和と安全性の確保を図るため、1997年度に事業に着手した。現在は、残る北側の県道筑西つくば線現道（筑西市村田）から県道つくば真岡線までの約3・1㎞区間で用地取得を進めている。

一級河川小貝川に架かる「養蚕橋」は、架橋から約59年を経ている。東日本大震災後、県では主要幹線道路に架かる橋梁の耐震化等を進めており、これらの課題対応のため整備を進めている。2013年度に事業に着手し、17年度に工事に着手した。

一般県道東山田岩瀬線は、車両の円滑な通行や通学路としての安全確保に向け、整備に着手。全体延長約8㎞のうち、筑西市区間の約5・5㎞が供用している。現在は、桜川市真壁町下谷貝の用地取得、工事を進めている。

地域に貢献する公共事業

県筑西土木事務所　所長　深作（ふかさく）　正志（ただし）氏

当所においては、県西地域内の主要都市を横断的に結び、各都市の連携強化に資する「筑西幹線道路」の一部をなす筑西三和線バイパスや、成長が続くつくば市と筑西市を直結し、産業の発展を支える筑西つくば線バイパス、また桜川市からの受託事業として本市と石岡市を繋ぎ、両市間の交流拡大と円滑で安全な交通環境の構築を図るための、（仮称）上曽トンネルなどの道路事業を始め、概成した「鬼怒川緊急対策プロジェクト」に続く「流域治水プロジェクト」としての田川や、治水安全度の向上を目指す桜川などの河川事業、さらに本県の新たな観光資源として「ナショナルサイクルルート」に指定されたつくば霞ヶ浦りんりんロードにおいて、快適な自転車走行環境を確保するための自転車道や拠点施設の整備なども鋭意進めています。

これからも、県西地域のみならず県南、県央地域の主要都市間の連携や、県西地域への企業立地の促進に資する道路の整備、沿川集落の被害を防ぎ安心安全な生活を守るための河川の整備、そして様々な地域資源を結び付け、観光振興に大きく寄与するサイクリングロードの整備といった、本地域の活性化に貢献できるような公共事業を進めてまいります。